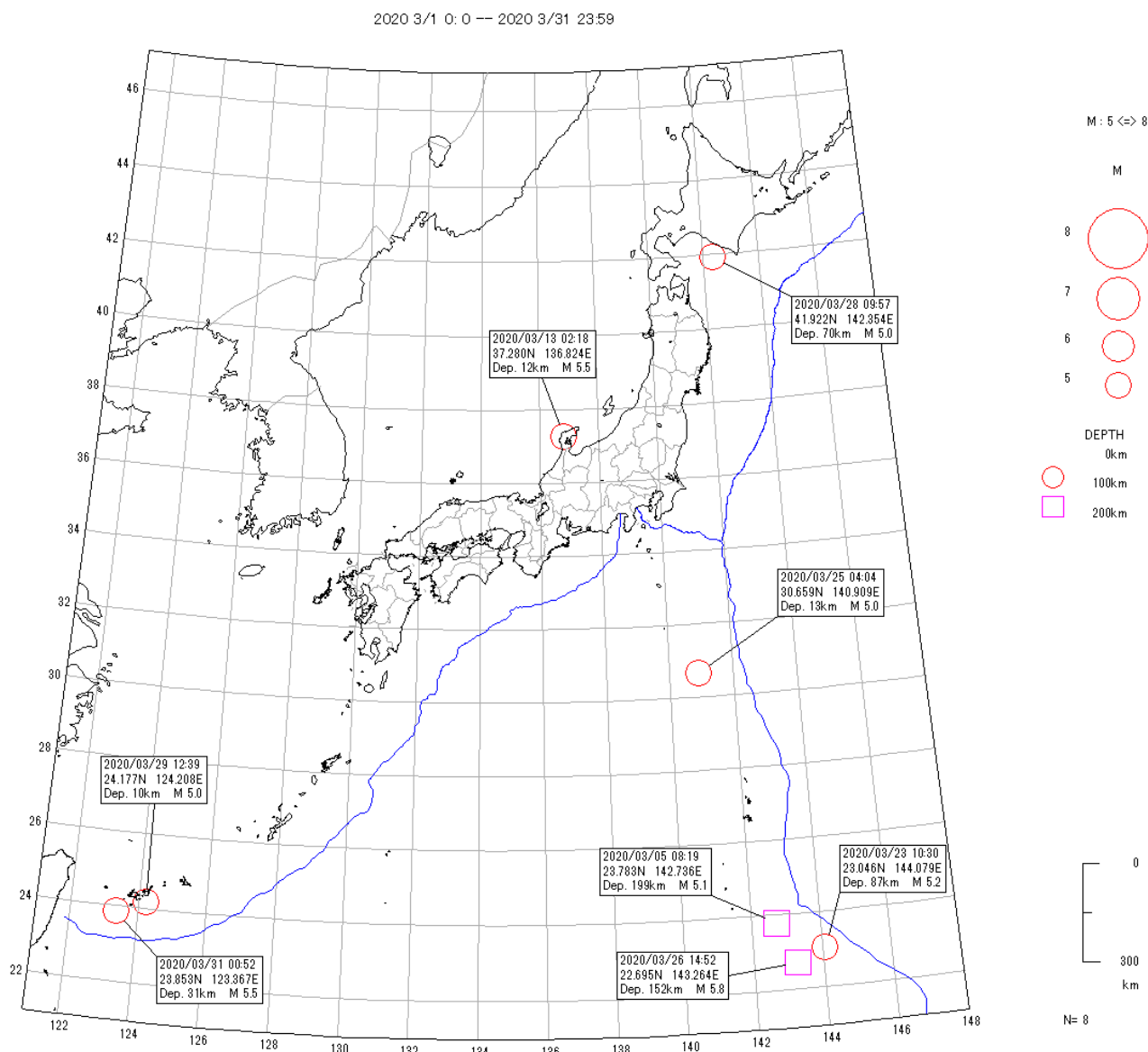
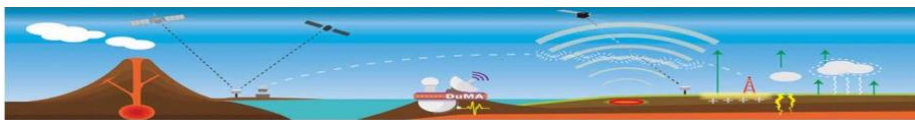


## 2020年3月の地震活動概観

2020年3月に日本およびその周辺で発生したマグニチュード(M)5を超える地震は8個でした。地震活動全般は比較的低調であったと判断できます。南西諸島・西表島近辺では少し活発な活動がありましたが、西表周辺では過去にも何度も群発地震活動が発生しています。3月は図の右下の伊豆小笠原海溝沿いでも少しまとまった活動が発生しました。



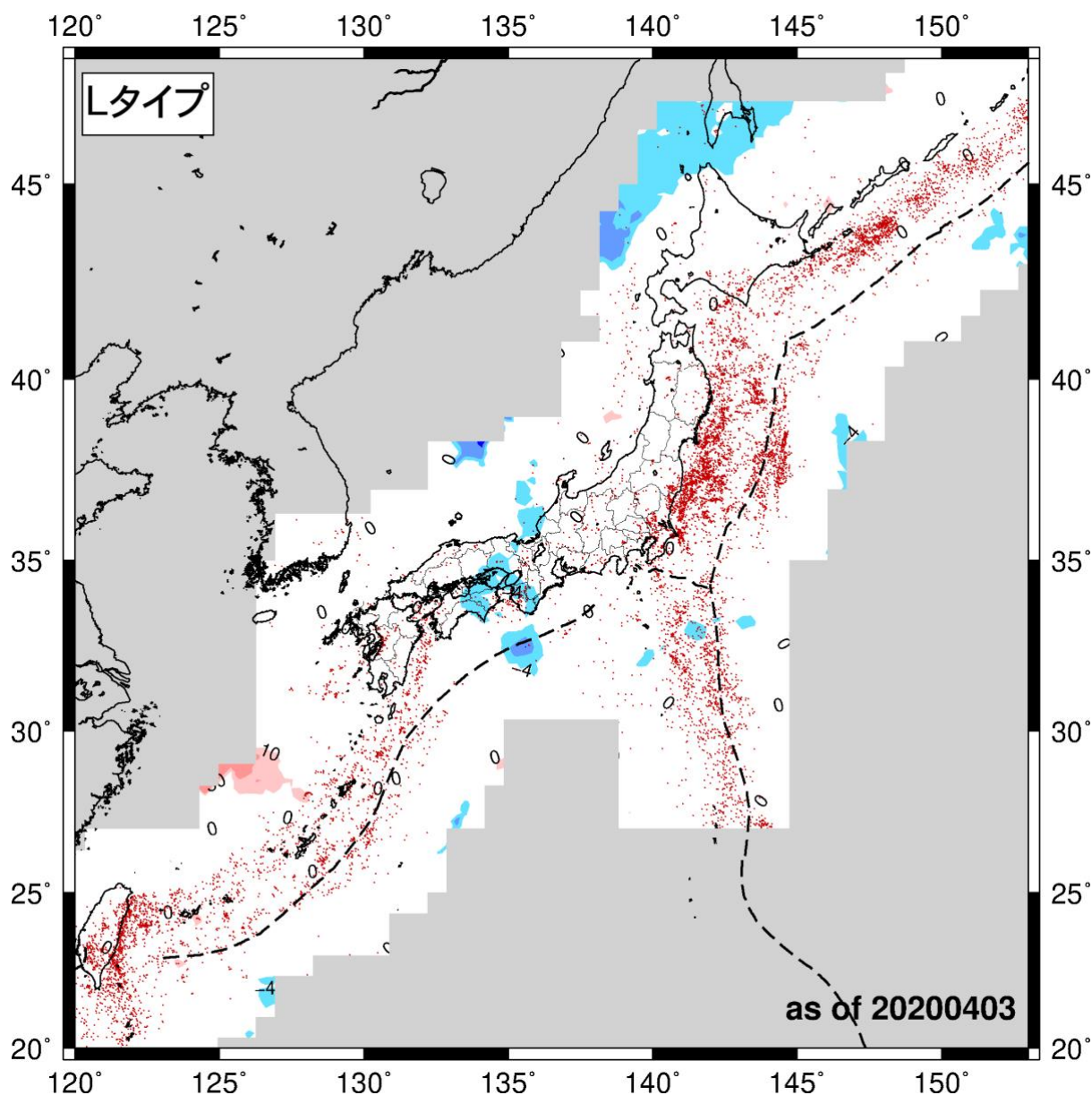


## 日本およびその周辺の広域地下天気図®

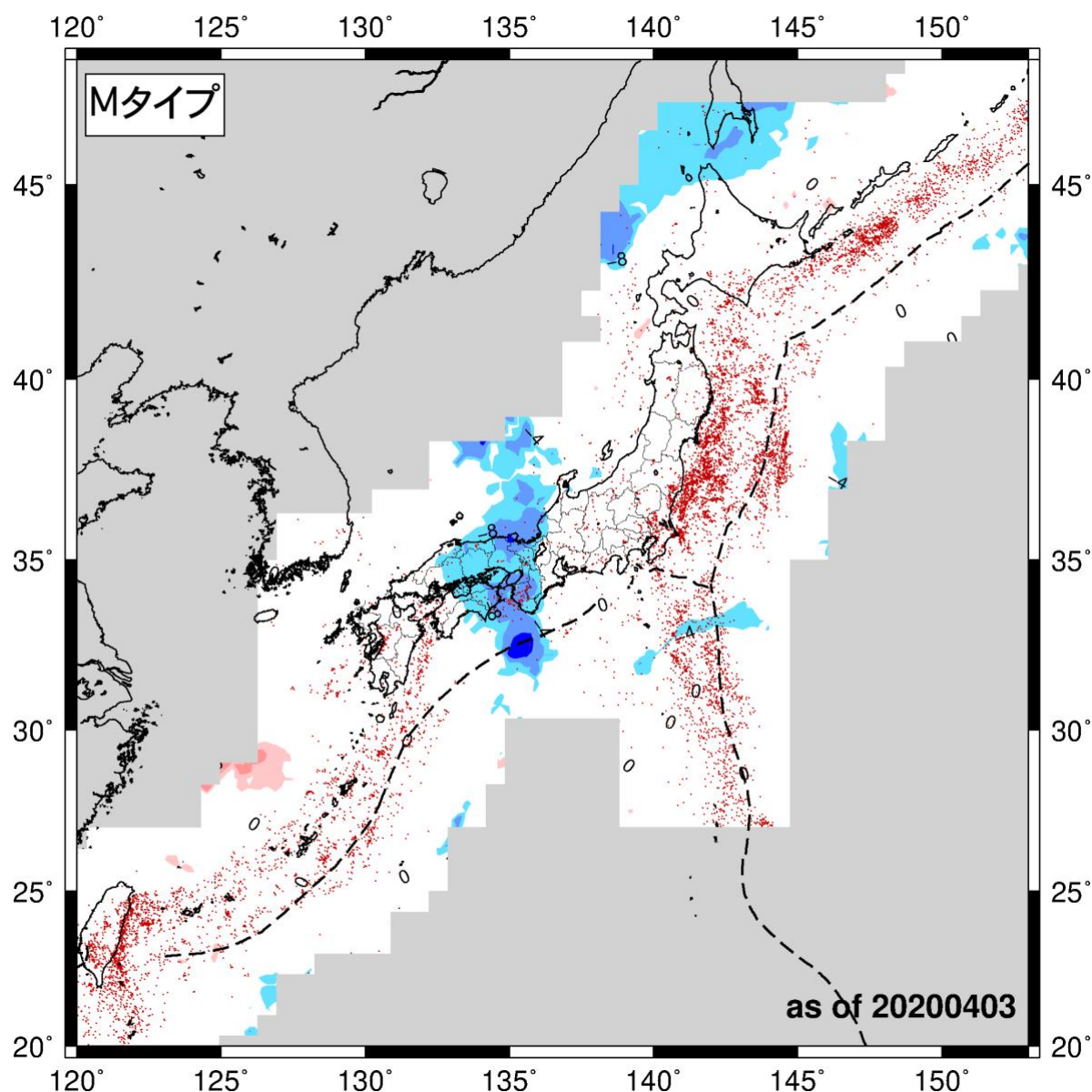
今週は2月24日のニュースレターに引き続き、現在の気象庁の観測網で解析できる最大範囲の領域の解析です。主に海域で発生するマグニチュード7以上の地震を対象とした解析です。

今回は4月3日時点のLタイプおよびMタイプの2つの地下天気図をお示しします。近畿地方から中国・四国地方にかけてMタイプの解析では大きな異常が出現しており、これまで異常がわずかであったLタイプでもかなり異常が見えています。特に紀伊半島沖の南海トラフ沿いの異常はまだ面積は比較的小さいですが顕著と考えています。ちなみにこの紀伊半島沖(紀伊水道)では、2018年に“ゆっくり地震”という体に感じない地震が発生していました(マグニチュードは最低でも6.6と言われています)。

北海道北部からサハリンにかけての異常はまだ継続しています。



4月3日時点のLタイプ地下天気図



4月3日時点のMタイプ地下天気図

## 2020年4月6日時点のダッシュボード

次の表は4月6日時点の地下天気図の DuMA ダッシュボードとなります。新たに紀伊半島沖の静穏化を表を加えました。また日向灘の地震活動活発化領域は、日本列島陸域の解析(たとえば3月16日付のニュースレター)では、日向灘で赤い領域(=地震活動活発化の領域)が見えていますが、これは解析対象としている地域と地震のマグニチュードの下限の値(どれぐらい小さな地震まで解析に用いるか)、さらには解析に用いている計算の半径(どれぐらいの地震がある地点に影響を与えているかという問題)などが違い、どちらかが間違っている、あるいはこちらが正しいという事ではなく、“いずれも正しい”のです。



そのため、同じ地域が含まれる地下天気図で結果が異なる事が生じるのです。日向灘の異常は主に陸域を解析対象としている地下天気図の異常のため、今週のダッシュボードからこの活発化の異常を削除いたしました。

更新日

2020.4.06

| 地下天気図®<br>解析           | 地域                                                                 | 警戒度<br>(異常の確度) | 現状                                                                | 静穏化・活発化期間 |           | 予測有効期間     | 備 考                                                                                                       |
|------------------------|--------------------------------------------------------------------|----------------|-------------------------------------------------------------------|-----------|-----------|------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                        |                                                                    |                |                                                                   | いつ頃から     | いつ頃まで     |            |                                                                                                           |
| 静穏化異常<br>継続中           | 北海道北部からサ<br>ハリンにかけて                                                | High           | 現在強い静穏化が継続中<br><u>少し静穏化が弱くなって<br/>きたとも考えられる</u>                   | 2018年5月   | 継続中       |            | サハリン北部では1995年に<br>ネフチェゴルスク地震<br>(M7.6) が発生し、2000名近<br>くの死者が出た事がある。                                        |
| 静穏化異常<br>発生            | 岩手・宮城沖                                                             | Medium         | LタイプでもMタイプでも<br>静穏化が開始した                                          | 2019年11月  | 継続中       |            | 岩手県およびその沖合の異常<br>は一度は解消したが、再び出<br>現している事が判明                                                               |
| <u>静穏化異常<br/>新たに発生</u> | 能登半島周辺                                                             | Medium         | LタイプでもMタイプでも<br>静穏化が開始した                                          | 2020年1月   | 継続中       |            | <u>もう少し追跡する必要あり</u>                                                                                       |
| 静穏化異常<br>継続中           | 北関東から房総半<br>島沖                                                     | High           | 複数のパラメータによる<br>地下天気図解析で静穏化<br>が認められる                              | 2019年8月   | 継続中       |            | 埼玉県周辺での静穏化異常は<br>3 1 1以降では初めて<br><u>より大きな地震を解析対象と<br/>している東北地方海域の地下<br/>天気図解析では異常がさらに<br/>強くなっている事が判明</u> |
| 静穏化異常<br>継続中           | 近畿地方<br>(和歌山県を中心<br>とし、四国東部を<br>含む地域)<br><u>一部中国地方でも<br/>異常が出現</u> | Medium         | Mタイプで大きな静穏<br>化、Lタイプは18年の大<br>阪北部地震の影響がまだ<br>残っており、静穏化は明<br>瞭でない。 | 2019年2月   | 継続中       |            | 18年の大阪北部地震の影響<br>がまだ大きく、評価が難しい<br>日本全国を対象とした解析で<br>も、Mタイプでより広域の異<br>常が出現                                  |
| 紀伊半島沖                  | 紀伊半島沖の南海<br>トラフ海溝軸付近                                               | Medium         | Lタイプ、Mタイプで共通<br>の静穏化異常が出現中                                        | 2019年1月   | 継続中       |            | 地下天気図解析では顕著な以<br>上となっているが南海トラフ<br>地域はもともと普段は地震活<br>動が低いため、解析に使用で<br>きる地震数が少ないため、制<br>度が若干落ちると考えられる        |
| 静穏化異常<br>終了            | 九州北部および山<br>口県西方海域                                                 | Medium         | 静穏化の消長を繰り返し<br>現在解消している                                           | 2018年1月   | 2019年 5 月 | 2020年 5 月頃 | 海域では地震発生数が少ない<br>ので、精度が若干落ちると考<br>えている                                                                    |
| 静穏化異常<br>終了            | 秋田県沖                                                               | Low            | 静穏化はすでに解消して<br>いる                                                 | 2019年8月   | 2019年10月  | 2020年10月頃  | 海域では地震発生数が少ない<br>ので、精度が落ちると考えて<br>いる。静穏化の期間が短い                                                            |
| 活発化異常<br>発生中           | 日向灘                                                                |                |                                                                   | 2018年1月   | 継続中       |            | 広域的な解析では活性化して<br>いるとは見えないため警報解<br>除                                                                       |